

# いぬがおか 9



2000 No.136

東京都世田谷区歯科医師会会報



## 東南アジア旅行の知的楽しみ方

「インド化」された国々へ 遺跡の旅-VIII

下馬部会 齋藤賢一

今回は南インドのカルナータカ州にある、バーダーミ、アイホール、パッタダカルの遺跡を見学したいと思います。なぜここが重要かともうしますと北型寺院と南型寺院の初期形態が、この三つの町わずか50km圏内に共存して建てられているからです。この建築ができた6～8世紀はまだこれらの形態が確立されておらず、この後それぞれ南北に分かれて発展していきました。この三つの町は、前期チャールキア朝（6～8世紀）の首都や商業地であった場所です。現在この地域は世界遺産に登録されていますが交通の便が非常に悪いため、訪れる観光客はほとんどおりません。まずムンバイ（ボンベイ）からゴアまで飛行機でゆき、そこから車で8時間ほどかかります。ゴアはインド最高のビーチリゾートでとても素晴らしいホテルが沢山あります。ゴアについては後ほどお話ししたいと思います。アイホール、パッタダカルには宿泊設備がありませんので、バーダーミを目指して出発しましょう。ゴアの町を出ると道路はすぐに上り坂になります。これは西ガート山脈が南北に横切っているためで一時間ぐらいでデカン高原に出て平坦な道がえんえん続きます。道の左右は火炎樹などの並木が直射日光を所々遮ってくれます。二時間ごとに甘いチャイ（ミルクティー）を飲み疲れをとりながらひたすら走ります。バーダーミに着くころはもう真っ暗になってしまっていますが、この町には小さいけれども心地よいホテルが一つだけありますので、ここを拠点に観光する事にしてまずは、中庭にテーブルを出してもらい遅い夕食のカレーを食べます。インドでは夕食の時間が遅くホテルのレストランは八時にならないと開かないところもあります。十時頃食事に行っても小さい子供を連

れた家族がまだ食事をしています。もっともみんな中流以上の人たちですが。バーダーミの町は人口二万足らずの小さな町ですが、かつては前期チャールキア朝の首都でヴァータービと言っていました。大きな人造湖の三方を岩山に囲まれており、この湖の周囲に遺跡が点在しています。特に有名なのが石窟寺院でインドでも有数のヒンドゥー彫刻があります（写-1）。岩山の南側に四つの石窟寺院が並び、三つがヒンドゥー教、一つがジャイナ教です。



写真-1 石窟寺院

第一窟はシヴァ神に捧げられており、「ナタラジャーシヴァの舞踊像」「ハリハラーシヴァとヴィシュヌの合体像」「アルダナーリーシュヴァラー両性具のシヴァ」そのほかシヴァファミリーの素晴らしい浮き彫り彫刻があります（写-2）。内部の柱や天井の彫刻もすぐれており、柱の上部に彫刻されたミトゥナ像が印象的です（写-3）。第二窟はヴィシュヌ神に捧げられており「ヴァーマナー矮人の化身」「ヴァラーハー野猪の化身」などの他天井にはクリシュナの説話、乳海攪拌などの神話が彫刻されています。第三窟もヴィシュヌ神に捧げられており、「ヴィシュヌ神像」「ナラシンハー人獅子の

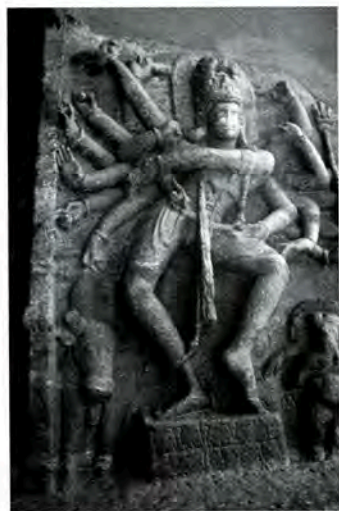


写真-2 「ナタラージャ」第一窟

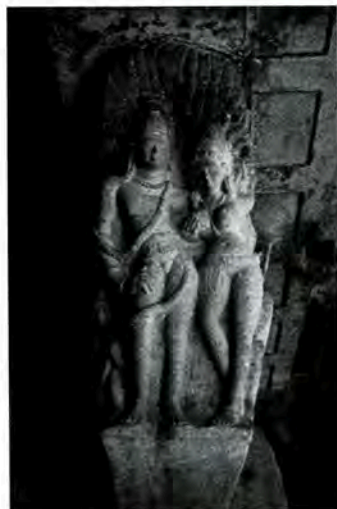


写真-3 ミトウナ像

化身」などがあります。第四窟はジャイナ窟です。こし時代が新しいと思われま。これら石窟寺院にはほとんど外国人観光客はおらず、インド人の観光客が沢山見学しております。これらインドの人たちと一緒に石窟を回っておりますと、なんとなくこころが通じ合ったような気持ちになり、これも神の御利益でしょうか一緒に記念写真を撮ったり、家で作ったお菓子やスナックを勧めてくれたり色々コミュニケーションが出来ます。

ブータナータ寺院は人造湖のほとりにたたずむ美しい寺院でとても絵になります(写-4)。



写真-4 ブータナータ寺院

岩山には三つのシヴァ神に捧げられた寺院、上のシヴァラーヤ寺院、下のシヴァラーヤ寺院、マーレギッティシヴァラーヤ寺院がありこれらは石積みで造り始めた最初期の寺院です(写-5)。上のシヴァラーヤ寺院とマーレギッティシヴァラーヤ寺院は高い崖ぶちに建っており、そこまで登っていくのが大変ですが眼下に広がる景色は素晴らしく特に夕暮れ時が最高です。

アイホーレはバーダーミから50kmの所にある小さな村でここに6世紀から12世紀の寺院が100以上もあります。ほとんどがヒンドゥー教の寺院で初期の寺院から中世にいたる色々な発展の形が見られとても興味深い所です。寺院は郊外の広い敷地に建っているものから町の家と家の間にひっそり建っているものまで色々あります。ここで必見の寺院は町を見おろす丘の上に建つ最古の石積み寺院であるメーグティ寺院で後の南型の要素を明確に見せております(写-6)。ラドカーン寺院もとても古く木造の建物を石で模した寺院で屋根に特徴があります(写-7)。ドゥルガー寺院は前方後円形をしており初期のヒンドゥー寺院は仏教建築の形式を

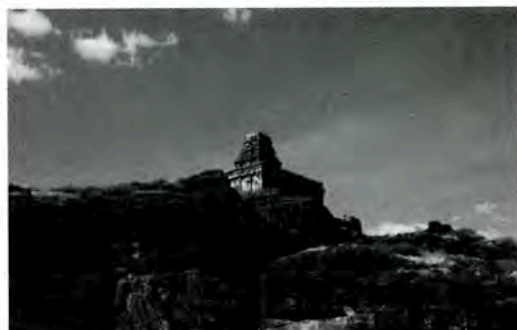


写真-5 上のシヴァラーヤ寺院



写真-6 メーグティ寺院



写真-7 ラドカーン寺院



写真-8 ドウルガー寺院

うけついで造られ、この寺院は仏教のチャイテイヤ堂を模して造られました(写-8)。アイホーレの彫刻の特徴は天井パネルにあります。肉厚彫りのとても素晴らしい彫刻ですが寺院内部は暗く見にくい上に、見ていると首が痛くなります。

3番目の都パッタダカルはバーダーミとアイホーレの途中にあります。バーダーミやアイホーレの遺跡が町中や郊外に点在しているのに対し、ここは柵で囲まれて整備された場所に南型、北型の9つの寺院が密集して保存されています。北型寺院は比較的小さく、本殿の上に北型

のシカラが立ち上がって遺跡の旅-VIでお話ししたブバネーシュヴァルやカジュラホの寺院に発展して行きます。ガラガナータ寺院は本殿の屋根が砲弾型となつてそびえ、北型シカラの形態を示しております(写-9)。パーパナータ寺院も北型の寺院で比較的大きく保存状態もとても良い寺院です(写-10)。ここで注目すべきは入り口から始まり身舎を一周するラーマヤナの浮き彫りです。ヴィルパークシャ寺院は一番大きな南型寺院で前回お話ししたカンチープラムのカイラーサナータ寺院の影響を受けております(写-11)。内部の柱にはヒンドゥー神話や叙事詩のとても素晴らしい彫刻がびっしり彫られています(写-12)。この寺院とすぐ隣にあるマリカルジュナ寺院はカンチープラムのパッラヴァ朝を、ここのチャールキア朝が破った戦勝記念に建てられたものでカイラーサナータ寺院を造った大工が連れてこられて建てたと碑文に書かれています。そのほか南型の大きな寺院としてはサンガメーシュヴァラ寺院があります。なぜここに、これだけの寺院が密集して建てられているのかは、よくわかりませんがおそらくここはチャールキア朝の聖地だったのではないかと思います。

これら三つの町の遺跡はインドでも、最も早い時期の石積み建築で建物も彫刻もとてもダイナミックでおおらかでかつ個性的です。時代が



写真-9 ガラガナータ寺院



写真-10 パーバナータ寺院



写真-11 ヴィルパークシャ寺院



写真-12 柱の彫刻 ヴィルパークシャ寺院

経つにつれて規模は大きくなりますが建物も彫刻も規格化されて個性がなくなってきます。この事は東南アジアの寺院、さらに日本の寺院についても同様であると思います。今回の旅行にはもう一つの目的がありました。ある日いきつけの本屋で「インド夜想曲—アントニオ・タブッキ 白水社」という本を見つけました。その本の帯に「インドの深層にふれるミステリアスな内面の旅行記—失踪した友人を捜してインド各地を旅する主人公、彼の前に現れる幻想と瞑想の世界」と書かれており、なにか運命的な

出会いを感じてその日のうちに読み切ってしまいました。あらすじは主人公がボンベイ（ムンバイ）、マドラス（チェンナイ）、ゴアと友人を捜して旅をするのですが著者がこの本のはじめに「これは不眠の本であるだけでなく、旅の本である。不眠はこの本を書いた人間に属し、旅行は旅をした人間に属している。しかし、この本の主人公が旅したいいくつかの場所へは私自身も行ったことがあるので、簡単な道案内をつけるのが適切と思われた。……それとも、こんなつじつまの合わない行程を愛してしまっただれかが、いつか、これをガイドブックとして活用するかもしれないという、ばかげた希望がさせたことか。」と書いてありこの本に出てくる場所やホテルの住所が載っています。この小説はすぐに映画化され、原作に忠実でとても良くできていましたのですぐにビデオまで購入してしまいました。レンタルビデオショップにあると思いますので是非御覧になることをお勧めします。そしてまさしく私はこの行程を愛してしまいガイドブックとして活用してしまいました。すでにボンベイとマドラスでは同じ旅をしました。今回もゴアで主人公と同じホテルに泊まり同じものを食べようと思います。そのホテルはアラビア海に向かって造ったポルトガル時代の要塞を利用したインド有数のビーチリゾートホテルです。宿泊料金は実にバーダーミで泊まったホテルの10倍以上はします。ここの敷地内はインドではなく全くヨーロッパです。主人公はここのプールサイドでロブスターを食べます。私も同じ場所でロブスターを食べました。遠くで潮騒が聞こえ、海からの風がとても気持ちよく過酷なバーダーミの旅の疲れを癒してくれます。

ゴアの町は16世紀よりポルトガルの貿易拠点として栄え、やがてオランダやイギリスが台頭し、ポルトガルは急速に衰退しましたが約450年間ポルトガル領でした。住民の多くはキリスト教で町並みもポルトガル風で教会も沢山あります。ヨーロッパ人も東洋人もインドでくつろげるオアシスのような町です。インドへ旅行するならば是非立ち寄ることをお勧めします。